

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 人間生活学部

食物栄養学科

氏 名 池 晶子

作成日 2025 年 6 月 6 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
生物学基礎	専門科目（食物栄養学科）	1～4 年	
食品衛生学実験	専門科目（食物栄養学科）	3～4 年	
管理栄養士特別演習Ⅲ	専門科目（食物栄養学科）	4 年	
卒業研究Ⅰ	専門科目（食物栄養学科）	4 年	
食物栄養実践演習	専門科目（食物栄養学科）	2 年	前期配当 通年実施

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
食品衛生学	専門科目（食物栄養学科）	1～4 年	
微生物学	専門科目（食物栄養学科）	3～4 年	
管理栄養士特別演習Ⅳ	専門科目（食物栄養学科）	4 年	
卒業研究Ⅱ	専門科目（食物栄養学科）	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

管理栄養士を目指して入学してくる学生が、将来の自分の姿をイメージしながら、着実に必要な知識、技術、経験を積んでいけるように教育することを重要視しています。特に初年次の授業を担当していることから、高校とは異なる大学の学び方に学生が慣れていけるよう、専門教育への橋渡しを心掛けています。一律な授業に馴染めない学生がいることを常に念頭に置き、現在の力量のすこし上にハードルを設定したトレーニングを促します。高学年では、管理栄養士への実践的教育のひとつとして、新しく修得した知識や技術を、他者への働きかけに展開できるように、教え合いや発表の機会を設けます。また、主体的、能動的に新しいことを追究する意欲を育てます。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 人間生活学部

食物栄養学科

氏 名 石川 英子

作成日 2025 年 6 月 7 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 6（2024）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
臨床栄養管理学	専門科目（食物栄養学科）・必修	3 年	第 1 Q
栄養教育論 II	専門科目（食物栄養学科）・必修	3 年	
総合演習 II	専門科目（食物栄養学科）・必修	4 年	
管理栄養士特別演習 III	専門科目（食物栄養学科）・必修	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
臨床栄養学 II	専門科目（食物栄養学科）・必修	2 年	
栄養教育論 I	専門科目（食物栄養学科）・必修	2 年	
総合演習 I	専門科目（食物栄養学科）・必修	3 年	
管理栄養士特別演習 IV	専門科目（食物栄養学科）・必修	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
給食経営管理論臨地実習	専門科目（食物栄養学科）・必修	3 年	

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3 つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

教育の理念は、「栄養学を学ぶことで、学生自身に幸せな人生を送ってもらいたい」です。ひとの身体は食べたものから成り立っています。将来、管理栄養士・栄養士の職業に就かない場合でも、食事は生きていくために必要なこととなります。栄養学等の関心を深め社会の中で自分が果たす役割を自覚すること、①友人との学び合いができる「楽しい」学びの場であることを実感してもらうと②管理栄養士国家試験に合格してもらう授業を心がけています。特に専門科目では、「調べる」、「考える」、「まとめる」、「振り返る」という学習スタイルの定着を目指しています。

大学卒業後、ほとんどの学生が就職し、社会人となっていくことから、時間を守る（遅刻厳禁、レポート提出の期限厳守）など社会人マナーの涵養も徹底しています。全学的ディプロマ・ポリシーとの関係では、DP1-1、1-2 栄養学、調理学および食生活に関する知識・技術・態度および考え方を統合的に修得し、DP2-2（汎用能力）実践活動の場での課題発見、解決を通して栄養士・管理栄養士として必要な能力を修得するために、「計画的、持続的に学修する習慣」の育成に力点を置いています。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

教育方針 1 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：授業に関連する内容を資料（教材）にまとめ、対面授業の内容を Zoom で録画し、いつでもどこでも復習できる体制を整備している。

工夫③：予復習が習慣化するように、復習を前提とした反転授業を用いた予習を複数回課し、成績評価に反映している。

教育方針 2 協働学習の構築 共に学ぶ学生へ

工夫①：臨地実習関連科目では、学生同士が相互に補いながら学習を進めるためのグループワークを取り入れている。

工夫②：学外実習となることから、班員が共に学ぶことができる体制を整備している。

教育方針 3 学習のアウトカムの出す

工夫①：管理栄養士国家試験に向けての授業においては、過去問題 3 年間の問題を分解し、説明、学生に解答してもらう時間を分野ごとにまとめている。

工夫②：苦手科目補習等を用いて、少数で授業を展開し、学生の stumbling block から awareness になるような寺小屋方式を展開している。

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

【成果】

○自走的・継続的臨床栄養学の学習と外部模試の臨床栄養学全国平均点よりも良い点数を取得できることに繋げることができた。

○積極的な個別指導（国家試験前）を行い、管理栄養士国家試験の合格率を全国平均以上にしたことにより寄与した。

○2024 年度の教育活動の成果

[学会発表、講演、紀要、執筆]

・ 2024 年 9 月 7 日：「栄養介入前後の女子駅伝部強化クラブ生 2 名の腸内細菌と睡眠との関係」第 71 回日本栄養改善学会学術総会（大阪）、石川英子、玉木咲子、須佐美幸恵

・ 2024 年 11 月 1 日：「良い睡眠と腸活セミナー」泉大津市健康力向上プロジェクト（泉大津商工会議所）泉大津市成人女性対象

・ 令和 6 年度第 20 巻羽衣国際大学人間生活学部研究紀要

「多剤服用中の女性大学教員の腸内細菌と睡眠との変化について」石川英子、玉木咲子、須佐美幸恵、宇佐見美佳

・ 2025 年 3 月 8 日：「睡眠の量・質の改善を目的とした栄養介入中にコロナ感染に罹患した 1 症例～腸内細菌の変容～」、第 28 回大阪府栄養士会研究発表会（大阪）石川英子、須佐美幸恵、西村智子

・ 給食経営管理実習テキスト執筆

「新調理システム対応 給食経営管理論実習・演習」（建帛社、ISBN978-4-7679-0770-3）

管理栄養士養成課程の 4 年生大学生を対象に、6. 顧客管理、7. 大量調理に関する衛生・安全管理の部分執筆した。

【課題と今後の展望】

○臨地実習先からの指摘に対して真摯に取り組む（総合演習Ⅰの授業に反映させる）。

○短時間（10～15 分程度）で視聴できる動画（臨床栄養学）を作成する。

* 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

* TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。

* 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 人間生活学部

食物栄養学科

氏 名 植田福裕

作成日 2025 年 6 月 14 日

1. 責務

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第1Q等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
臨床栄養学Ⅰ	専門科目	2年	
管理栄養士特別演習Ⅰ	専門科目	3年	
管理栄養士特別演習Ⅲ	専門科目	4年	
総合演習Ⅱ	専門科目	4年	
食物栄養実践演習A	専門発展科目	2年	
卒業研究Ⅰ	専門発展科目	4年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
臨床栄養学実習Ⅱ	専門科目	3年	
管理栄養士特別演習Ⅳ	専門科目	4年	
総合演習Ⅰ	専門科目	3年	
臨床栄養学臨地実習	専門科目	3年	
卒業研究Ⅱ	専門発展科目	4年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

臨床栄養学は疾病と栄養、食事療法の関りを学ぶ学問である。特に医療機関。高齢者施設で働く監理栄養士・栄養士にとって重要な領域である。管理栄養士養成課程である食物栄養学科の専門科目であり基礎部分の理解と十分な考察力を習得する必要がある。

DP1-2「栄養学、調理学および食生活に関する知識・技術・態度および考え方を総合的に修得している。」レベル3「栄養学、調理学および食生活に関する応用的な科学的知識・技術・態度・考え方を修得している。」に基づいて育成している。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 人間生活学部

食物栄養学科

氏 名 金森雅夫

作成日 2025 年 6 月 10 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
病理学Ⅰ	専門科目	2 年	
特別演習	専門科目	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
病理学Ⅱ	専門科目	2 年	
生活環境論	専門科目	2 年	
特別演習	専門科目	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

世界は、マラリアなどの感染症の増加、猛暑、豪雨、干ばつ、地震、紛争による災害死の増加などが顕著にみられ、被災者は、貧困化、低栄養状態の悪化に悩んでいる。高齢化が急速に進んでいる我が国では、COVID-19 感染者の中での免疫能低下の高齢者の事例や独居高齢者の低栄養化も指摘されている。授業では、最先端の病理像を紹介しながら、国際人として、アフリカ・アジア諸国に移住しえる未来社会を考え、生き抜いていく職業人として、その基礎、土台を学んでいるのだということを強調したい。そのためには、できるだけ具体的な事例—気候変動対策、食中毒、疾病のエビデンスである治療ガイドライン—を通じて語りかけたい。全学的ディプロマ・ポリシーとの関係では、DP2-1（基本リテラシー）：外国語表記になれる、DP3-2（学修習慣）：目標に向かって計画的、持続的に学修する習慣の育成に力点を置く。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
-

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

-
-

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 人間生活学部

食物栄養学科

氏 名 塚元葉子

作成日 2025 年 5 月 28 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
解剖生理学 I	専門基礎科目（食物栄養学科）	1 年	
大学入門ゼミナール I	基礎科目（食物栄養学科）	1 年	
管理栄養士特別演習 I	専門科目（食物栄養学科）	3 年	
管理栄養士特別演習Ⅲ	専門科目（食物栄養学科）	4 年	
卒業研究 I	卒業研究	4 年	
SPI 対策基礎（非言語分野）	基盤教育科目	1 年	第 1 Q

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
解剖生理学 II	専門基礎科目（食物栄養学科）	1 年	
解剖生理学実験	専門基礎科目（食物栄養学科）	3 年	
管理栄養士特別演習Ⅳ	専門科目（食物栄養学科）	4 年	
卒業研究 II	卒業研究	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

管理栄養士養成課程の学生に対して、主にディプロマポリシーの DP1 に則り、ヒトの栄養に関する諸問題の基礎となる解剖生理学・病理学的知識や医学用語を「嫌いにならずに」修得させること、を目標としています。実際の食事と栄養生理学的知識をつなげて、管理栄養士の仕事に活かせるように、特に 1 年生の授業では、できるだけ具体例を挙げながら、身近な問題として捉えることができるように工夫しています。3 年生の解剖生理学実験や卒業研究では、ディプロマポリシーの DP2～3 に力点をおいて指導しています。小、中、高と、学業に専念してきたとは言い難い学生が多いですが、基本は素直で伸び代のある学生達です。授業では常に『今できていないこと』で評価するのではなく（入試でそのような選別ができていない）、『今できていないこと』を自覚してこれから伸びるためにテストをし、勉強を促す」ことを説明し、塚元自身は学生の将来に明るい希望を持っていることを常に伝え、学生を信じて応援する教育者でありたいと考えています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
-

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

-
-

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 人間生活学部

食物栄養学科

氏 名 中村 絵美

作成日 2025 年 6 月 12 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

記載例)

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
食品評価論（演習）	専門科目（食物栄養学科）	4 年	
管理栄養士特別演習Ⅰ	専門科目（食物栄養学科）	3 年	
管理栄養士特別演習Ⅲ	専門科目（食物栄養学科）	4 年	
大学入門ゼミナールⅠ	専門科目（食物栄養学科）	1 年	
スポーツ栄養学実習	専門科目（食物栄養学科）	3 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
健康科学	専門科目（食物栄養学科）	1 年	
応用栄養学Ⅱ	専門科目（食物栄養学科）	2 年	
管理栄養士特別演習Ⅱ	専門科目（食物栄養学科）	3 年	
管理栄養士特別演習Ⅳ	専門科目（食物栄養学科）	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

管理栄養士を志す学生に対する教育をメインに行っており、入学してから4年生までその意欲を持続させるような授業を意識して実施しております。例えば、現在学修していることが日常生活ひいては管理栄養士国家試験につながっていることを常に伝えるような授業を心がけております。

建学の精神である『愛真教育』を基盤とした『自由・自主・自律・個性尊重の人間教育』を通して、社会に有為な人材を育成する」ことを意識し、管理栄養士という国家資格を有する医療従事者の一員として社会で活躍できるように教育しております。

また、導入科目である「大学入門ゼミナールⅠ」ではDP3-1（態度・志向性）「主体的に行動しながら自己管理ができ、チームワークを重視し、社会で信頼され活躍できる人間力とリーダーシップを有している。」ことを、専門科目ではDP1-1「（知識・理解）栄養学、調理学および食生活に関する知識・技術を体系的に学び修得している。」ことを中心に力点を置いて教育しております。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

【成果】

- 積極的な学修姿勢を涵養できた
- 管理栄養士としての意識を高めることができた
- グループワークを通じて力を合わせてプレゼンテーション発表を行えた（大学入門ゼミナールⅠ）

【課題と今後の展望】

- 管理栄養士国家試験以外の、食に関する資格（フードスペシャリスト等）取得意欲の向上
- 時間外学修時間の確保

【添付資料】

なし

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 人間生活学部

食物栄養学科

氏 名 古市 卓也

作成日 2025 年 6 月 11 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

記載例）

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
生化学Ⅰ	専門基礎科目	1 年	
免疫学	専門基礎科目	3 年	
管理栄養士特別演習Ⅲ	専門科目	4 年	
卒業研究Ⅰ	卒業研究	4 年	
大学入門ゼミナールⅠ	基礎科目	1 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
生化学Ⅱ	専門基礎科目	1 年	
生化学実験	専門基礎科目	1 年	
管理栄養士特別演習Ⅳ	専門科目	4 年	
卒業研究Ⅱ	卒業研究	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

管理栄養士養成課程に進学する学生の志向は多様化しており、病院や学校、福祉施設に加えて食品会社などの企業、スポーツ施設、公務員を志望する学生が増加している。一方で、栄養学が理系分野に位置することを明確に認識しないまま入学に至るケースも増加しており、個々の学生に寄り添った指導の重要性が増している。講義科目では高校までの生物・化学の知識が充分でない学生がいることを念頭に、これらの関連項目についても基礎から説明している。実験科目では教科書や文献などを用いた結果の予測、デモ動画の事前視聴による手順確認、実験開始前のグループディスカッションによる情報共有、実験毎に指示係や記録係などのロールプレイングに取り組ませることにより、理解度と社会人基礎力の向上を図っている。生化学は栄養学の基礎となる科目であることから、「DP1-1:栄養学に関する技術・知識を体系的に学ぶ」こと、免疫学・国家試験対策では「DP1-2:同知識と考え方を体系的に習得すること」、卒業研究では「DP2-2:主体的にやり抜く力」を重視して指導している。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

教育方針 1 自律的学修習慣を身につける

工夫①：重要語句の確認プリント、e-learning 教材により、要点を明らかにした復習ができる環境を整えている。e-learning 教材では実施状況（到達度）を可視化している。

工夫②：講義内容を整理し、調べたことを書き足した「まとめノート」を作成するように指導している。

工夫③：工夫①および②の実施により高得点がとれる、達成感を得られる期末試験を実施している。

教育方針 2 協調的学修環境を形成する

工夫①：質問対応やレポート作成指導を中心として学生との対話を重視している。

工夫②：研究室を開放し、学生の居場所、自習スペースとして提供している。

工夫③：学生間での質疑や議論、問題の出し合いなどを喚起している。

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 学生間での質疑や議論、問題の出し合いにより、ゼミ生の国家試験合格に繋がった。
- 国家試験過去問 e-learning 教材の有用性を理解し、学生自身が作成に取り組むようになった。

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- 学生が作成する国家試験過去問 e-learning 教材について、作成者の理解と利用者への有効性を高めるためのディスカッションを深化させる。
- e-learning 教材をより作りやすく、使いやすくするプログラム、ソフトウェアについて改善の検討をする。
- 1年生の生化学では用語を選択する e-learning 教材を作成、提供しているが、用語の暗記のみでは国試形式の出題（文の正誤を判断する）への対応が難しい。用語の意味を理解し、国試形式の出題への繋ぎになる教材について、検討を進めている。

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 人間生活学部

食物栄養学科

氏 名 南野 勝彦

作成日 2025 年 6 月 17 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

記載例）

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
実験基礎	専門基礎科目	1 年	
基礎栄養学実験	専門科目	2 年	
食物栄養学実践演習	専門発展科目	2 年	前期配当 通年実施
管理栄養士特別演習Ⅰ	専門科目	3 年	
管理栄養士特別演習Ⅲ	専門科目	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
大学入門ゼミナールⅡ	専門科目	1 年	
基礎栄養学Ⅰ	専門科目	1 年	
基礎栄養学Ⅱ	専門科目	2 年	
管理栄養士特別演習Ⅳ	専門科目	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

基礎学力だけでなく専門知識においても、学生の興味は know-how や Point に傾倒しがちであり、確かに確立された know-how を利用する事は、重要かつ迅速な問題解決方法である。しかしながらひとたび例外や予想外な事態にぶつかると、とたんにどうして良いかわからなくなり立ちすくむ姿をよく見かけ、社会のニーズに応えるには一定の思考では解決することはできない。これらの理由から、知識を提供する事はもちろん、問題を解決することの意味や、知識の使い方を考えさせることによって学習意欲を持たせ、主体性を持ち、迷いながら課題解決に取り組む事の重要性をも教育したい。

全学的ディプロマ・ポリシーとの関係では、講義科目は、DP3-2（学修習慣）「自己を管理する力を身につけ、自らの立てた目標に向かって計画的、持続的に学修する習慣」の育成、実験・演習科目では、DP2-1（基本リテラシー）「自分の考えを的確に表現するための日本語運用能力、基礎的な ICT 活用力」および DP3-3（協働力）「周囲の人と協調しながら自らの役割を果たし、協働して物事を進める力」の育成に力点を置いている。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 基本的な学習法の習得

工夫①：時間はかかるが後で見返すことができるノートを作成させる

工夫②：ポイントを明確にする

教育方針 2 協調的学習環境の形成

工夫①：特に実験では共同作業を重視している

工夫②：分からないところを班のメンバーや友達に聞ける仕掛けをつくる

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

○ノートを取る習慣が身についている。

- レポートの質が上昇した。
- 提出物をきっちりと提出習慣が身についている。
- 国家試験対策の基礎が構築されている。

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- 学生間でのグループ学習方法を発展させたい。

＊ 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- ＊ TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- ＊ 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 人間生活学部

食物栄養学科

氏 名 李温九

作成日 2025 年 6 月 16 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
調理学	専門科目（食物栄養学科）	2 年	
調理学実習Ⅱ	専門科目（食物栄養学科）	2 年	
管理栄養士特別演習Ⅲ	専門科目（食物栄養学科）	4 年	
卒業研究Ⅰ	専門科目（食物栄養学科）	4 年	
食物実践演習	専門科目（食物栄養学科）	2 年	前期配当 通年実施

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
調理学実習Ⅰ	専門科目（食物栄養学科）	1 年	
大学入門ゼミナールⅡ	基礎科目（食物栄養学科）	1 年	
管理栄養士特別演習Ⅱ	専門科目（食物栄養学科）	3 年	
管理栄養士特別演習Ⅳ	専門科目（食物栄養学科）	4 年	
卒業研究Ⅱ	専門科目（食物栄養学科）	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

変化する社会環境とダイバーシティに対応できる社会力と相手の気持ちに寄り添える感性豊かな人間力をもつ管理栄養士の育成を目指しています。学生に対して、食の専門家として食べ物の生産から調理に至るまでの仕組みを理解し、栄養や健康に関する専門知識だけでなく、環境問題にも関心をもつような指導を心がけています。調理学理論および調理実習では、食品の調理性に対する知識や作ることの楽しさだけを伝えるのではなく、災害時や非常事態の食事作りにも対応できる応用力を身に付けることの重要性も教育しています。また、食の外部化や国際化に興味を持ち、多様な食文化にも柔軟に対応できる学生の育成に努めています。

全学的ディプロマ・ポリシーとの関係では、DP1-1「栄養学、調理学および食生活に関する知識・技術を体系的に学び習得している」の育成に重点を置いています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

* 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。

* 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること (社会人基礎力)

工夫①: 初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②:

教育方針 2 自宅外学習習慣 (予復習) を身につける

工夫①: 授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②: 予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①:

工夫②:

4. 成果と課題、今後の計画

* 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。

* 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。

* ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。

* 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

* 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 人間生活学部

食物栄養学科

氏 名 恵美真子

作成日 2025 年 6 月 9 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
応用栄養学Ⅰ	専門科目（食物栄養学科）	2 年	
スポーツと栄養	専門発展科目（食物栄養学科）	2 年	
スポーツと栄養Ⅰ	専門発展科目（食物栄養学科）	2 年	
スポーツ栄養学実習	専門発展科目（食物栄養学科）	2 年	
食物栄養実践演習 A(スポーツ)	専門発展科目（食物栄養学科）	2 年	
卒業研究Ⅰ	卒業研究（食物栄養学科）	4 年	
管理栄養士特別演習Ⅲ	専門科目（食物栄養学科）	4 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
大学入門ゼミナールⅡ	基礎科目（食物栄養学科）	1 年	
健康栄養実習	専門科目（食物栄養学科）	2 年	
スポーツと栄養Ⅱ	専門発展科目（食物栄養学科）	2 年	
管理栄養士特別演習Ⅱ	専門科目（食物栄養学科）	2 年	
管理栄養士特別演習Ⅳ	専門科目（食物栄養学科）	4 年	
卒業研究Ⅱ	卒業研究	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

食物栄養学科では、管理栄養士国家試験合格を目標に、高度な栄養管理スキルを持つ職業人育成を念頭において教育しています。特にスポーツ栄養分野で活躍できる人材育成を目指し、スポーツにおける競技特性を理解して栄養ケア・マネジメントを実践できるように教育しています。またスポーツ現場で求められる臨機応変な対応や、コミュニケーション能力を養うことができるよう、選手の事例を紹介し、献立作成や模擬栄養指導など実践的な学習スタイルで行っています。

全学的ディプロマ・ポリシーとの関係では、DP1-2「栄養学、調理学および食生活に関する知識・技術・態度および考え方を総合的に修得している」、DP4-1「(統合的な学習経験と創造的思考力) 地域社会の食に関わる課題を見出し、地域住民の健康と福祉に食の面から貢献できる能力を修得している」の育成に力点を置いています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 人間生活学部

食物栄養学科

氏 名 金岡有奈

作成日 2025 年 5 月 27 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
公衆栄養学Ⅰ	専門科目（食物栄養学科）	3 年	
総合演習Ⅱ	専門科目（食物栄養学科）	4 年	
卒業研究Ⅰ	専門科目（食物栄養学科）	4 年	
管理栄養士特別演習Ⅲ	専門科目（食物栄養学科）	4 年	
食物栄養実践演習 A	専門発展科目（食物栄養学科）	2 年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
公衆栄養学臨地実習	専門科目（食物栄養学科）	4 年	公衆栄養学臨地実習

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
公衆栄養学Ⅱ	専門科目（食物栄養学科）	3 年	
公衆栄養学実習	専門科目（食物栄養学科）	3 年	
総合演習Ⅰ	専門科目（食物栄養学科）	3 年	
卒業研究Ⅱ	専門科目（食物栄養学科）	4 年	
管理栄養士特別演習Ⅳ	専門科目（食物栄養学科）	4 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
キャリアサポート演習 A2(公務員入門)	基盤教育科目	1～3 年	

2. 理念

公衆栄養学は集団を主な対象とし、栄養上の問題の解決および疾病予防と健康増進を図ることを目的としており、地域社会の健康・栄養問題課題解決に向けた実践活動（公衆栄養活動）を伴います。地域集団の健康栄養問題とそれらを取り巻く環境要因に関する情報を収集・分析し、分析結果を総合的に評価・判定するとともに、課題解決のための公衆栄養プログラム立案能力を養うことを目指し、DP4-1（統合的な学習経験と創造的思考力）に力点を置いて育成しています。さらに保健所・保健センターにおける臨地実習や卒業研究では、DP2-2（汎用的能力）や DP3-1（態度・志向性）の育成を図り、各種栄養関係プログラム・公衆栄養活動がどのように実施されているか、学習し、地域における保健・医療・福祉・介護の連携、保健所管理栄養士の役割について理解すること目的としています。管理栄養士特別演習では国家試験合格に向けて、DP1-2（知識・理解）の育成を目指しています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムの出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。

- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
- ・・・

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- ・・・・・・・・・・
- ・・・・・・・・・・

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 人間生活学部

食物栄養学科

氏 名 須佐美幸恵

作成日 2025 年 6 月 10 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
給食経営管理論 I	専門科目（食物栄養学科）	2 年	
大学入門ゼミナール I	専門科目（食物栄養学科）	1 年	
SPI 対策基礎(非言語分野)	基盤教育科目	1 年	第 1Q
総合演習 II	専門科目（食物栄養学科）	4 年	副担当

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
給食経営管理論実習	専門科目（食物栄養学科）	3 年	
給食経営管理論演習	専門科目（食物栄養学科）	3 年	
大学入門ゼミナール II	専門科目（食物栄養学科）	1 年	
総合演習 I	専門科目（食物栄養学科）	3 年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
給食の運営	専門科目（食物栄養学科）	3 年	

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

専門科目では、「考える」、「まとめる」、「振り返る」という学習スタイルの定着を目指しています。座学「給食経営管理論」では管理栄養士として社会に出たときにほとんどが実践してゆく内容であるため、なじみがない項目でもイメージしやすい表現で伝えることを意識しています。さらに「給食経営管理論実習・演習」を通して実務業務に近い体験をしていただき、春期集中の臨地実習「給食の運営」につなげられるように、学生たちに担当科目間のつながりを意識してもらえるように考えています。社会人としてのマナー等については実習の事前指導を兼ねる「総合演習Ⅰ」で時間を守ることや提出物の締め切りを守ることの重要性を伝えるようにしています。

全学的ディプロマ・ポリシーとの関係では、「給食経営管理論Ⅰ」「給食経営管理論実習・演習」は、DP1-2 栄養学、調理学および食生活に関する知識・技術・態度および考え方を、「総合演習Ⅰ」ではDP2-2（汎用的能力）実践活動の場での課題発見、解決を通して栄養士・管理栄養士として必要な能力を修得していけるように力点を置いています。

以下の項目については、後期授業終了後、ご記載いただきますので、現時点では記載不要です。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

記載例)

教育方針 1 時間を守ること（社会人基礎力）

工夫①：初回授業のオリエンテーションで時間厳守の授業方針を伝えています。

工夫②：・・・

教育方針 2 自宅外学習習慣（予復習）を身につける

工夫①：授業が授業内だけで完結するものではなく予復習と一体であることを説明。

工夫②：予復習が習慣化するよう毎回、復習を前提とした予習を課し成績評価に反映。

教育方針 3 学習のアウトカムを出す

工夫①：・・・

工夫②：・・・

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

- 自走的・継続的英語学習と資格取得等（TOEIC、英検等）に繋げることができた
- 積極的な学修姿勢を涵養できた（プロジェクト演習、英語スピーチコンテストなど）
- 英語学習と成果に関するデータを分析することができた。
- 英語カリキュラムに共通要素を取り入れることができた。
-

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

-
-

- * 表紙を含め、全体として、3～5 ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 人間生活学部

食物栄養学科

氏 名 玉木 咲子

作成日 2025 年 5 月 27 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。

大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR推進委員会、学科会議、教学委員会、FD委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

令和7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第1Q等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
栄養管理学	専門科目（食物栄養学科）	3年	
栄養教育論Ⅱ	専門科目（食物栄養学科）	3年	
管理栄養士特別演習Ⅲ	専門科目（食物栄養学科）	4年	
フードスペシャリスト論	専門発展科目（食物栄養学科）	4年	
卒業研究Ⅰ	専門発展科目（食物栄養学科）	4年	
食物栄養実践演習	専門発展科目（食物栄養学科）	2年	

【夏期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
担当科目なし			

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
栄養教育論Ⅰ	専門科目（食物栄養学科）	2年	
給食経営管理論Ⅱ	専門科目（食物栄養学科）	2年	
給食経営管理論演習	専門科目（食物栄養学科）	3年	
給食経営管理論実習	専門科目（食物栄養学科）	3年	
管理栄養士特別演習Ⅳ	専門科目（食物栄養学科）	4年	
卒業研究Ⅱ	専門発展科目（食物栄養学科）	4年	

【春期集中】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
担当科目なし			

2. 理念

食物栄養学科では管理栄養士国家試験の合格を重要な目標の一つと位置づけていますが、それだけにとどまらず、卒業後に社会で専門職として活躍できる力の養成を重視しています。そのため、知識の定着はもちろんのこと、実践的な技術や応用力、課題解決能力の向上にも力を注いでいます。

授業では知識の定着に加えて、教員の実務経験や具体的な事例を積極的に取り入れ、学んだ内容を実際の業務でどのように活用するかを伝えています。また、他科目との関連性を意識することで、学生が複数の視点から総合的に理解を深められるよう工夫しています。

全学的ディプロマ・ポリシーとの関係においては、特に DP1-1「栄養学、調理学および食生活に関する知識・技術を体系的に学び修得している」、および DP1-2「栄養学、調理学および食生活に関する知識・技術・態度および考え方を総合的に修得している」の達成を教育の中心に据え、講義・演習・実習を通じて、学生がそれらを身につけられるよう努めています。

3. 方法

教育方針 1

工夫①：

工夫②：

教育方針 2

工夫①：

工夫②：

教育方針 3

工夫①：

工夫②：

4. 成果と課題、今後の計画

記載例)

【成果】

○

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

○

【添付資料】

羽衣ティーチング・ポートフォリオ

大学名 羽衣国際大学

所 属 人間生活学部

食物栄養学科

氏 名 鮫島由香

作成日 2025 年 6 月 10 日

教員の教育力向上に向けた全学的なティーチング・ポートフォリオの取組について

羽衣国際大学 学長 中川 恵

本学園の建学の精神『愛真教育』に基づく自由・自主・自立・個性尊重の人間教育を通して社会に有為な人材を育成する」、大学の使命・目的「これからの共生社会において主体的に行動する実践的職業人の育成」を目指す上で、
不断の教育改革を欠かすことはできません。

本学の教員一人ひとりが自らの教育活動について、その理念や責務を明らかにしつつ、具体的な活動を記録し振り返り、それらを組織的に共有することは、個々の教育活動の質を向上させるとともに、大学全体の教育力を高めることに繋がります。

以上の趣旨を踏まえ、本学では、以下のとおり「ティーチング・ポートフォリオ」の作成を行うこととします。
大学教育の根幹である個々の授業を担当される各位におかれては、全学教育及び各学部学科等における教育活動を学生・教員双方にとってより意義深いものとするため、「ティーチング・ポートフォリオ」の作成に、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

1. 羽衣国際大学 ティーチング・ポートフォリオの定義

本学のティーチング・ポートフォリオは、本学の建学の精神、教育上の使命・目的、全学及び学部学科等ポリシー等を踏まえ、自らの教育活動について、以下の項目に基づいて教育理念から成果までを自己省察し、記載するものとし、これらを裏付ける根拠資料によって構成します。

- (1) 責務（何を行っているか） 担当科目など
- (2) 理念（どのような考えに基づいて行っているか） 教育上のもっとも大切にしていること
- (3) 方法（その考えをどのように実現しているか） 理念を実現するために工夫していること
- (4) 成果と課題、今後の目標

2. 作成・活用について

- (1) ティーチング・ポートフォリオは、原則として教育活動に従事する全専任教員を対象として毎年度作成し、所属長（各学科長、共通教育開発センター長）に提出します（電子ファイル）。
- (2) 所属長は、各教員から提出されたティーチング・ポートフォリオの内容を確認し、学科等の三つのポリシーとの整合性のチェックするほか、カリキュラム編成などの参考とします。
- (3) ティーチング・ポートフォリオの活用は、内部質保証委員会、自己点検・評価委員会、IR 推進委員会、学科会議、教学委員会、FD 委員会など関連する会議体と連携して取り組みを推進します。

3. 運用について

ティーチング・ポートフォリオの運用は大学事務局（総務課、教務支援課）が行います。

4. 公表について

ティーチング・ポートフォリオは、教育改善・教育の質向上に資するため、本学ホームページ等を通して公表します。

1. 責務

「*」ではじまるコメントは執筆時には削除してください。

- * ここは教育活動について何をやっているかの概略を示します。
- * 本学において、現在または過去数年間に担当した科目（科目名、必修 or 選択、学年等）と教育活動（ゼミ・CA 担当、学科等での役割など）を列記します。
※今回は初回であるため、今年度担当分について記載してください。
- * 果たしている自身の教育上の責務について記述します。

令和 7（2025）年度の担当科目をご記載ください（科目名称、科目分野、配当学年）。

【前期担当科目】 ※クォーター実施科目の場合は配当学年の後に第 1 Q 等とご記載ください

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
食品学Ⅱ	専門科目（食物栄養学科） 管理栄養士必須	2 年	
食品加工学	専門科目（食物栄養学科） 選択	2 年	
食物栄養学実践演習 A （フード）	専門科目（食物栄養学科） 選択	2 年	
管理栄養士特別演習Ⅲ	専門科目（食物栄養学科） 管理栄養士必須	4 年	
卒業研究Ⅰ	専門科目（食物栄養学科） 選択	4 年	

【夏期集中】

担当科目なし

【後期担当科目】

科目名称	科目分野	配当学年	備考 クォーター
大学入門ゼミナールⅡ	専門科目（食物栄養学科） 管理栄養士必須	1 年	
食品学Ⅰ	専門科目（食物栄養学科） 管理栄養士必須	1 年	
食品学実験	専門科目（食物栄養学科） 管理栄養士必須	2 年	
食物栄養学実践演習 A （フード）	専門科目（食物栄養学科） 選択	2 年	
管理栄養士特別演習Ⅳ	専門科目（食物栄養学科） 管理栄養士必須	4 年	
卒業研究Ⅰ	専門科目（食物栄養学科） 選択	4 年	

【春期集中】

担当科目なし

2. 理念

- * 自身の教育に対する理念（教育者としての自覚、大切にしていること、学生への期待や思いなど）を記述します。
- * 建学の精神、教育上の使命・目的、3つのポリシー（特にディプロマ・ポリシー）を踏まえてご記載ください。

5～10行以内でご記載ください

食物栄養学科は管理栄養士養成課程であるので、学生が管理栄養士国家試験を突破できる力を身に着けることを目標にしています。講義する際は、知識を詰め込むのではなく「なぜそうなるのか」といったことや、関連する事項の小話も盛り込み、より興味を引くように授業を組み立てています。

また、食物栄養学科の学生は、大学卒業後、栄養士・管理栄養士として様々な背景をもつ人々と携わっていくことから、栄養に関する知識の習得および自らの言葉で、それらの知識を表現する力の育成に力を入れています。全学的ディプロマ・ポリシーとの関係では、講義科目は、DP3-2（学修習慣）「自己を管理する力を身につけ、自らの立てた目標に向かって計画的、持続的に学修する習慣」の育成、実験・演習科目では、DP2-1（基本リテラシー）「自分の考えを的確に表現するための日本語運用能力、基礎的な ICT 活用力」および DP3-3（協働力）「周囲の人と協調しながら自らの役割を果たし、協働して物事を進める力」の育成に力点を置いています。

3. 方法

- * 自分の行っている教育方法について説明します。教育方針を見出しとし、その方針を具体化するための方法を箇条書きで示します。
- * 例えば、教授方法、授業内での工夫、開発した教材、授業以外の諸活動、自己研鑽などです。

4. 成果と課題、今後の計画

- * 自分の行った教育活動の成果と課題を箇条書きで示します。
- * 正課については、学生からの授業評価、学生の学修成果として、理解が深まった、興味関心を高めた、資格取得につながった、進路決定につながった、学生が学会等で発表した、学生が表彰されたなど。
- * ご自身の教育活動を学会等で発表したり、論文等にまとめられたりした場合は、成果として記載してください。
- * 課題については成果を踏まえつつ、どのような課題が残されているか、教育をさらに発展させていくための計画について記載してください。

記載例)

【成果】

【課題と今後の展望】※今後、取り組みたい内容などでも結構です

- * 表紙を含め、全体として、3～5ページ程度までとします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙します。
- * 電子データの添付は不要ですが、関連 URL がある場合はタイトルの後に付記してください。